

かんしゃ



お互い助け合う「^{かんしゃ}感謝」の気持ちと「^{かん}諫^{しゃ}早市社会福祉協議会」の意味を込めて名付けました。末永く皆さまに愛される広報紙を目指しています。

2022
Vol.199

わたしたちにできること何だろう

～災害からまなぼう！～

今年も、また3月11日がやってきます。

早いもので、東日本大震災から10年以上の月日が経過しました。この10年ほどの間、熊本地震や福岡県西方沖地震をはじめ全国各地で大規模な地震が発生し、大きな被害をもたらされました。

平成23年の東日本大震災では、身体障害者手帳を持つ人の死亡割合は、全住民の死亡率の2倍以上に上り、熊本地震でも多くの障害者や高齢者が孤立したそうです。

近年の様々な災害の経験から防災への関心は高まっています。しかし、地域の中には、一人で避難することが困難な方がいらっしゃいます。有事に備えて、わたしたちにできること、あらためて考えてみませんか。



平成28年熊本地震（当時の益城町の様子）

私たちは、約8割を目から、約1割を耳から情報を入手しています。「危険だ！」と周囲がどれだけ騒いでいても、視覚に障害がある人は、状況がつかめず不安だけが募り、聴覚に障害がある人は、マスクが日常化した今、相手の口元から情報を得ることが難しくなりました。一人で避難することが困難な人に、どうしたら伝わりやすくなるのでしょうか。

危険を察知しやすい

情報伝達のポイント



視覚障害

周囲の状況を目で確認できないので、情報が入りにくいことがあります。「あそこの川が、もうすぐ氾濫しそう」より、「本明川が危険水位まできとる」など、具体的な言葉で説明すると状況が伝わりやすくなります。



聴覚障害

聴覚に障害のある方は、外見からは障害があることが分かりづらいため、情報が入りにくいことがあります。

となりぐみバンダナは、諫早手話サークルで作成しました。黄色は聴覚障害者、ピンク色は手話ができることを一目でわかるようになっています。



高次脳機能障害

交通事故や病気によって脳に損傷を受けることによって記憶力や注意力、感情などの機能に障害が表れます。外見からは、障害があることがわかりにくいですが、一人ひとり症状が違いますが、ゆっくり、はっきり話すことで伝わりやすくなります。



高齢者

年齢とともに身体機能が低下しはじめます。例えば防災無線も聞こえにくいため、情報がはいりにくくなります。また、行動に移すのも時間がかかるので、早めに電話などで情報を伝えることで最初の行動がスムーズになります。



※その他にも、日本語の理解が不十分な外国人など情報伝達に配慮が必要な方がいます。

◀わたしたちにできること ～お互いに支え合う～



地域でのネットワークの構築

～ボランティア団体の取り組み～

地域の人に、すぐ近くに配慮が必要な方が住んでいるということを知ってほしい。そしてろう者にも、住んでいる町の状況を知ってほしい。

その想いを込め、諫早手話サークルでは、ろう者が住んでいる市内各地で「となりぐみ探検隊」を実施しています。ろう者と地域の方々、行政の職員などが一緒に歩き、避難経路や危険箇所を確認しながら、防災マップを作成。災害時に安心して過ごせるようみんなで気付きを共有しながら、ろう者と地域住民のネットワーク作りを心掛けています。

鶴川会長は、「コロナが落ち着いたら、ろう者だけではなく他の障害の方も一緒にまち歩きをして、情報まんさいの防災マップを作りたい」と今後の想いを話します。

障害の有無に関わらず、みんなが安心して暮らせる諫早を目指して、心強い取り組みが広がってきています。



防災マップ



避難所へパンの差入れ

～企業の取り組み～

昨年8月の大雨の際は、諫早市内に避難所が開設されたとの情報を得た九州フジパン長崎工場（諫早市多良見町）から避難所にたくさんのパンが届けられました。大雨で納品できないパンが大量に発生し、それならば支援物資として使ってもらおう！と市役所に電話したと総務係長の大河内さん。災害時にもすぐに食べられ、保存性もあるのでお役にたてるのではないかとその思いが迅速な対応へとつながりました。

地域に密着しながら、安全・安心で美味しいパンを作りつつ、パンの製造過程でできたパンの耳を家畜の飼料原料として再生利用するなど食品ロス削減に向けた取り組みにも余念がありません。



自主避難所の開放

～施設の取り組み～

特養しろみでは、災害時に地域の方へ避難場所として施設を開放しています。熊本地震をきっかけに、施設内で地域のためにできることはないか改めて考えたそうです。自治会や民生委員、老人会、小中学校等、地域を巻き込んで「自主防災活動」について話し合いを重ねて実行しました。

施設の熱い思いは実り、地域住民の方へ避難場所として開放できる準備が整い、令和2年9月の台風10号の接近時に市が避難所を開設すると同時に施設を開放。避難した方からは、「町内なので避難所より近くて助かる」「自宅より安心できた」との声が聞かれたとのこと。また、施設が火災などの災害に巻き込まれる場合には、地域住民が施設入所者の避難に協力をする体制も整えられています。困ったときはお互いさま。誰もが安心して暮らせる仕組みがあります。



地域の中での声かけ

～寺院の取り組み～

令和2年7月の大雨では、近所の深海川が氾濫しそうだと、危険を感じた人たちが向かったその先は、地域の中でも少し高台にある曹洞宗天初院（諫早市高来町）。お寺の広間を利用して、避難所として地域の人に開放しているそうです。地区長や民生委員、地域全体で連携し、不安を抱えていると思われる人へ電話をして避難誘導しました。

川を見るのが怖いと話していた人も、避難所でみんなと一緒にだと安心して過ごすことができたそう。

自宅にいるのが不安な人は、だれでも遠慮なく来てもらってよかとですよと住職。法事のたびに、婦人会で炊き出しをされていたこともあり、設備と経験をいかして避難者へ食事もふるまわれたそうです。

地域の絆が、地域の防災力を高めていきます。



わたしにできること ～不安に寄り添う～

災害時、私たちはどのような支援ができるのでしょうか。
諫早市在住の視覚障害者の方々にインタビューしてきました！



災害時どのような配慮があれば嬉しいですか

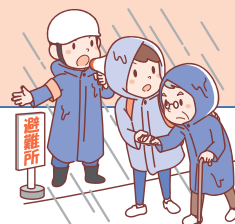
周りの状況が分からず不安なため、誰かに声をかけてもらい一緒に避難所まで行ってくれたら嬉しいです。また、避難所においても壁などに接した場所を確保してもらえれば、トイレ等にも行きやすくなります。



災害の備えとして日頃から意識していることはありますか



日頃から近所の方とお近づきになることを意識しています。そうすることで自分に何かあった時に助けを求めやすい関係となるからです。



視覚障害者の場合、ひとりで移動することが困難です。避難所においては、できるだけ出入り口やトイレに近い場所を確保するなど、移動が少なく済むように配慮することが必要です。

災害時、頼りになるのは、「遠くの親戚より近くの隣人」と言われます。

「助ける」というのは実際に手を伸ばして人命を救うことではありません。

近所に体の不自由な人や高齢者、病気の人がいれば、気かけ、声をかける。隣近所でお互いを助け合うことも防災・減災につながります。



令和3年度 赤い羽根共同募金及び歳末たすけあい募金運動実績報告・お礼

赤い羽根共同募金と歳末たすけあい募金につきまして、市民の皆様から温かいご支援とご協力を賜り、心から厚くお礼申し上げます。

赤い羽根共同募金は、諫早市の福祉のため、黄色い帽子贈呈やふれあい食事サービスの助成など、次年度、地域の中で有効活用させていただきます。

歳末たすけあい募金は、生活困窮世帯に対して支援物資の配布や火災見舞金などに活用させていただきました。

募金実績額（令和4年1月31日現在）

募金にご協力いただいた方（掲載を希望される方）は諫早市社会福祉協議会ホームページに掲載させていただく予定にしておりますので、是非ご覧ください。

今後とも募金活動へのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます、お礼の挨拶といたします。

長崎県共同募金会諫早市支会
支会長 大久保 潔重



赤い羽根共同募金

18,163,139 円

歳末たすけあい募金

2,819,160 円

令和4年度ボランティア活動保険のご案内

ボランティア活動中の様々な事故による傷害や賠償責任などについて補償する保険として、「ボランティア活動保険」があります。

【加入プラン】

基本プラン 350円／人
天災・地震プラン 500円／人
特定感染症重点プラン 550円／人 **NEW**

※上記プランでは対象にならなかった10日以内に発病した特定感染症が初日から補償されます。

〈申込・問い合わせ〉 諫早市社会福祉協議会
TEL 0957-24-5100

ふくしの保険

検索



豆知識講座

～ステキに年を重ねましょう！～

よろず相談カフェ「道しるべ」

誰しも年を重ねます。心配事やこれからのこと。気楽にお話してみませんか？

帰るときには、ほっこり笑顔になれるように！作業療法士と精神保健福祉士がお手伝いします。

日 時：令和4年3月16日（水） 10時～15時のあいだ **いつでもどうぞ**

場 所：上山荘1階 多目的ホール

対象者：市内に居住する概ね60歳以上の方
ご家族の方もどうぞ

参加費：上山荘入館料として160円

申込締切：令和4年3月9日（水） 当日参加も可

〈申込・問い合わせ〉 上山荘 23-2488



シリーズ地区社協 第29回

やれる力をフル活用！ 活力あふれる諫小地区

～諫小地区社会福祉協議会～



諫小地区は、諫早市の中心部に位置し、市街地として栄え、本明川や半造川が流れている地域です。

諫小地区社協では、今後5年間の地区社協の基本的な考え方や取り組みを決めた、地区社協地域福祉活動計画を策定しようと、話し合いを重ねています。地域や家族から孤立する人を取り残さないよう、困ったときには声をあげることができる地域を目指します。

顔の見える関係を

話し合いの中では、地域住民が顔を合わせる機会を増やしていくことに。地区社協の活動は自治会や老人会、民生委員など多くの地域団体の協力のもとすすめられることが強みです。老人会の集いの場をつくるノウハウや、民生委員の日頃の見守り活動を活かして声かけをし、まずは、ふれあいいきいきサロンを増やしていこうという話をしました。

また、こどもがもつと地域でふれあえるよう、興味をひくイベントを企画しては、という提案もされました。

災害時の安心も「つながり」から

さらに、話し合いをすすめると、各町の自治会が防災に向け、地域にできることを取り組んでいることが分か

会長	清水 富夫
人口	7,635人 (令和4年1月1日現在)
高齢化率	30.6%

諫小地区社会福祉協議会って
どんなことしているの？

- ふれあいいきいきサロン(2箇所)
- 子育てサロン(1箇所)
- ひとり暮らし高齢者の集い(年1回)
- ふれあい食事サービス(年3回)
- 福祉協力員設置(17人)
- 広報紙発行(3回)
- ひあしっ子育て事業協力

地域の発信力を

今後このような情報交換をすすめ、地区社協として取り組んでいくことを考えることとしました。防災においても、基本となるのは日頃の「つながり」のようです。

地域には困りごとや不安を抱えていても誰に相談していいかわからない、という人もいます。もしもいざ。災害時の避難や子育ての不安などをやわらげるために、必要な情報が必要な人へ届くよう、発信をしていこうと諫小地区社協の清水会長をはじめみんなで確認しました。



ご寄付ありがとうございました

次の皆さまから、心温まるご寄付をいただきました。
ご厚志に沿うよう地域福祉事業のため大切にさせていただきます。

令和4年1月1日～令和4年1月31日受付分

香典返し

- ▶毛利ます枝 様 (森山町)【亡夫 正信 様】
- ▶田島 一総 様 (長野町)【亡母 ソワ 様】
- ▶山口 照雄 様 (西彼杵郡長与町)【亡姉 フミエ 様】

編集
発行

社会福祉法人 諫早市社会福祉協議会

〒854-0045 諫早市新道町948番地
TEL 0957-24-5100 FAX 0957-24-5101
ホームページ <http://isahaya-shakyo.jp>
(諫早市社会福祉協議会で検索ください)

3月のふれあい福祉相談

財産、権利擁護など、法律上の悩みごとなどをおたずねください。

無料専門相談	開設日	3月25日(金) 弁護士
	開設時間	午後1時30分～4時
	場所	諫早市社会福祉協議会 電話 24-5100

※専門相談は、10日前までに予約をお願いします。



follow
me



諫早市社会福祉協議会だより「かんしゃ」では、広報紙に関するご意見、地域で行われる福祉活動や行事の情報を皆様から募集しています。